

カリキュラム・ポリシー、
ディプロマ・ポリシー

川村学園女子大学 カリキュラム・ポリシー「教育課程編成・実施の方針」

川村学園女子大学では、建学の精神に基づき、自覚ある女性として社会に奉仕できる教養人を養成するため、文学部、教育学部、生活創造学部を置く。各学部は以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成する。

1. 広範で多様な教養教育、幅広い職業人養成を目的としてすべての学生が履修する全学共通カリキュラムを導入し、さらに高度の学問研究の場を提供するため、各学部は学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。
2. 各学科は専門分野の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて、専門科目を体系的に配置する。大学における学修の集大成として、卒業論文・卒業研究を全学必修とし、指導教授制のもとにていねいな個別指導を行う。
3. 全学共通カリキュラムでは、初年次教育として、自立的な学習スキルの養成を目標とする「基礎ゼミナール」、建学の精神の周知を目指す「総合講座」を配置し、豊かで時代に即した教養の修得をはかるために共通教育科目を多様に設定する。
4. 学部学科の専門分野を超え、幅広く関心ある科目を履修して学際的な視点を養うことを奨励するため、所属学科の主専攻のほかに「副専攻」の履修プランを用意するとともに、「クロスオーバー学習制度」を導入する。
5. 学生各自の個性に基づいて自己を確立し、それをいかに社会に生かすかを考えさせ、職業人としての基礎力を養成するため、初年次からキャリア・プランニング科目を設定する。
6. 初年次の基礎ゼミナールから卒業論文・卒業研究の研究指導に至るまで、少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

国際英語学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 国際的な視点をそなえた語学のエキスパートを養成することを目的として、英語スキルアップ科目、文化を多角的な視点から研究する「文化」に関する科目、英語教員や児童英語指導員を目指す学生を支援する「言語・教育」に関する科目、国際ビジネスや観光業界を目指す学生を支援する「国際関係」に関する科目を配置する。
2. アクティブ・ラーニング科目「English in Action」シリーズを継続的に学習できるように1年次から3年次まで配置する。英語スキルアップの科目では、習熟度別の少人数制を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行い、英語運用能力に加えて企画力やプレゼンテーション能力を養成する。
3. 早期にグローバル社会の諸問題への理解を深めるために1・2年次に国際関係入門の基礎科目を置く。さらに、2年次のコミュニケーション演習科目（通訳、翻訳）によってキャリアに直結する指導をする。
4. 3・4年次にもスキルアップのためのアクティブ・ラーニング科目を設置し、英語によってリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッションを行い、実践的英語能力を養う。
5. 言語コミュニケーション特講と国際コミュニケーション特講を設置し、グローバル時代の高度情報化社会に生じる諸問題について理解を深め、日本の文化を世界に発信する力を養う。
6. 留学・海外研修の制度を整備・充実し、希望する学生を支援する。
7. 大学における学修の集大成として卒業研究を課し、指導教授制のもとに学生の個性と独創性を尊重した個別指導を行う。

史学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 歴史学・地理学の知識および方法論を習得し得るよう、初年次段階から学年進行に合わせて専門科目を体系的に配置する。専門科目は歴史学の新しい方法や視点を取り入れ、多くの選択科目を設けて幅広い教養と深い学識が習得できるように配慮する。
2. 初年次・2年次に歴史学・地理学に関する基礎的科目を配置し、2年次以降に日本史・アジア史・西洋史・地理の各専門領域の科目が履修できるようにする。また2年次以降には学年進行に合わせて各種の「演習」（ゼミナール）を配置し、学年ごとに必修または選択必修とする。
3. 歴史学・地理学に必要な外国語に習熟するとともに、異文化を理解するため、2学年にわたって英語ならびに第二外国語の履修を必修とする。
4. 大学における学修の集大成として、最終年次における卒業論文の作成を必修とする。その作成にあたっては指導教授制のもとにていねいな個別指導を行う。
5. 高等学校・中学校教員や司書・学芸員などの資格取得を希望する学生に対しては、体制を整備し支援する。
6. 史学科が実施する全てのカリキュラムにおいて少人数教育を徹底し、学生の特質に応じたきめ細かい指導を行う。

心理学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 人々の心に科学的にアプローチするための知識および方法論を習得し得るよう、学年進行に合わせて、講義、演習、実験・実習科目を体系的に配置する。
2. 専門科目は「認知・発達・社会・臨床」の各専門領域に関して配置する。
3. 「認知・発達・社会」の各領域における理論、技法を学ぶ講義、実験・実習を配置し、心理学全般の基礎力を養成する。
4. 「臨床」領域は他の3領域の基礎の上に心理臨床場面で求められる観点や技法を学べるよう、学外を含めた実習を行う。
5. 3年次には各自の研究テーマを選び、4年次には大学における学修の集大成として、各自の研究テーマについて実験・調査を行い、データを解析し、考察し、発表するという卒業論文を個別指導のもとに必修とする。

日本文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 初年次・2年次においては、大学での学習のための方法論の基本に習熟し、日本文化全般に関する基礎的理解を深める。
2. 年次が進むにつれ、各人の関心に応じて専門科目を多く履修できるようカリキュラムを体系的に編成する。専門科目は「日本文学・日本語学系」、および「日本美術・伝統芸能・民俗系」に分けられる。
3. 「日本文学・日本語学系」には日本語教員養成のための科目など、国際的視野のもとに日本文化を学ぶ科目を多く設置する。
4. 上記の理論的科目のほかに、本学科では特に日本文化を体得できるよう書道・日本舞踊・茶道・華道・日本画・能の仕舞謡いなど実技科目を設ける。
5. 3年次には「専門演習」、4年次には「文献演習」で専門的な研鑽を積み、各人が選ぶ研究テーマで卒業論文を作成することとし、それまで以上に徹底した学生の個別指導を実施する。

幼児教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 子どもと共に生きることができる自覚ある保育者、全ての〈ひと・もの・こと〉に感謝できる保育者、自らの保育を常に振り返り成長し続け、社会に貢献することのできる保育者の養成を目指す。
2. 幼保連動カリキュラムで2年次より保育者として必要な基礎知識と技術を、体験を通して身に付けられるように、①教育・保育に関する専門的な技能、②乳幼児の心身の発達に関する理解、③表現力の習得、④課題発見・解決力の育成、⑤使命の自覚と社会奉仕の精神の育成、の5つの養成する力をもとに科目を編成する。
3. 知識の活用能力、論理的思考力、課題探究力、表現能力、コミュニケーション能力など、社会生活において必須となる一般的な能力を育成するために、研究やディスカッションを実践的に積みあげる参加型の少人数授業（ゼミナール）を実施する。
4. 専門性の幅を広げるために、保育者に必要とされる多様な技能、技術を身に付け、実践できるよう幅広い演習科目を配置し、現場実習でその学習効果を総合的に活用できるように丁寧な指導を実践する。
5. 幼児教育に関する課題だけではなく、広い視野を持って様々な課題を自ら設定し、必要な情報収集・選択と活用を通じて自らの疑問や課題を探求し、解決するための能力を養うために卒業研究を設定する。

児童教育学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 学生のニーズに応じた履修を可能にするために、カリキュラムを「教職の専門的知識・技能」「教育実践力」「教職への対策力」「創造力・表現力」「課題解決力」の5分野に区分して、系統的に配置する。
2. 小学校教員として要求される深い専門的知識・技能・態度の確実な習得のために、教育学の基礎的理論科目、各教科教育法を中心とした教職の専門科目、教育実習を中心とした実践的・応用的科目を配置する。また、学校等の教育関係施設での体験を通して実践的に学ぶ機会を1年次から4年次まで順次配置する。
3. 少人数制ゼミナールを実施する。1年次ではレポート作成や目的に応じた情報収集の方法、2年次ではプレゼンテーションの方法やグループワークの方法を習得し、3年次では学生の興味に応じたゼミナールに所属し、専門性を教育実践に活かせるようにする。
4. 4年間の集大成として、個別指導体制のもとに卒業論文を執筆させ、研究成果を発表させる。

生活文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 社会的視点と生活者・消費者の視点を持ち、豊かな生活を創造できる力を兼ね備えた栄養士を養成することを目的として「食物・健康」、「社会・生活」、「文化・アート」の3領域の科目群を配置する。
2. 栄養士資格取得をめざし、そのための知識・技術を習得するため、初年次教育から理論ならびに実験・実習科目等を配し、各領域を実践的かつ体系的に学ぶ。
3. 栄養士関連科目を含む「食物・健康」科目群に加え、「社会・生活」、「文化・アート」群の科目を配することで、豊かな感性ならびに社会学視点を備え、多様な社会環境に適応できる社会力を付ける。
4. 社会のニーズにこたえ即戦力となりうる教職、栄養教諭に加え、フードスペシャリストなどの資格取得を目指す学生のための体制を整備し支援する。
5. 3年次には、生活文化専門演習として「食物・健康」、「社会・生活」、「文化・アート」の3領域から各自がテーマを決めて研究を始め、4年次には、これを継続させ専門性を高めた卒業研究へと発展させる。

観光文化学科では、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成し実施する。

1. 1年次において、観光および観光文化に関する総論的な知識を習得できる科目を置く。
2. 専門教育科目として、「観光基礎」、「観光文化」、「ホスピタリティ」、「観光外国語」、「観光実践」の5つの領域を配置する。
3. 「観光基礎」領域には、既存の学問の方法論を用いて観光現象を明らかにする観光理論科目を展開する。
4. 「観光文化」領域には、インバウンド対応力の育成を目的として、日本の観光、歴史・文化を学び、その上で海外の観光、歴史・文化を学ぶ科目を展開する。
5. 「ホスピタリティ」領域には、ホスピタリティのあり方や各種産業に関する科目を置く。
6. 「観光外国語」領域には、異文化理解のための基礎科目と、観光の現場で必要とされる英語を始めとする外国語を学ぶ科目を置く。
7. 「観光実践」領域には、理論が実社会においてどのように展開されているかを現場で検証し、課題解決を考える為の科目を置く。
8. 3年次には必修科目として観光文化専門演習を置き、4年次の必修科目である卒業研究演習および卒業研究と連続して学ぶ事ができるようにする。また、ゼミナール単位で国内および海外研修旅行を行い、現地でフィールドワークを実施する。
9. 「観光実践」科目の他にも、講義及び専門演習に関連した視察や見学を実践し、座学で学んだ理論を国内外の現地・現場で確認する機会を設ける。

川村学園女子大学 ディプロマ・ポリシー「学位授与の方針」

川村学園女子大学では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与する。

1. 全学共通カリキュラムの履修を通して、基礎的な学習能力を養うとともに、人間・文化・社会・自然に対する理解を深めていること。
2. 学部・学科における体系的学習を通じて専門的知識を修得してその方法論に習熟し、それらを現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけていること。
3. 「自覚ある女性」として社会において求められる態度・責任感をもち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

国際英語学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

1. 人間・文化・社会・自然に関心を寄せて学際的に学び理解を深めることによって、教養とそれによって裏打ちされた個性を積極的に磨いていること。
2. 「文化」、「言語・教育」、「国際関係」に関する専門的知識を習得し、その方法論に習熟し、それらを国際社会において的確に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけていること。
3. アクティブ・ラーニング科目「English in Action」シリーズおよび英語スキルアップの科目を履修し、実践的な英語運用能力を身につけていること。
4. 世界各国の文化とグローバル社会の諸問題を理解し、国際社会の諸分野で活躍できる知識とコミュニケーション能力を身につけていること。
5. 「自覚ある女性」として国際的な視点をそなえ、国際社会において活躍するために求められる態度と責任感をもち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

史学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

1. 史学科における体系的学習を通じて、古代から現代にいたる人類の文化活動の変遷を学び、歴史学・地理学についての専門的知識を習得しその方法論に習熟していること。
2. 地理歴史に関し学修した知識や教養を統合して人間・文化・社会・自然に対する理解を深め、かつそこで培った洞察力・視野・問題意識を現代社会の多様な問題の解決に応用し得る実践的スキルと創造的思考力を身につけていること。
3. 「自覚ある女性」として幅広く深い視野をそなえ、複雑化する現代社会において多方面で活躍するために求められる態度・責任感をもち、豊かな感性を持って社会に奉仕する志を養っていること。

心理学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（心理学）の学位を授与する。

1. 心理学科における体系的学習を通じて、認知・社会・発達・臨床の多領域にわたる専門的知識を習得し、その方法論に習熟していること。
2. 多様化し、複雑化する現代社会を生き抜く人々の心を探求し、自己をとりまく環境をより豊かにしていくための役割を担えること。
3. 「自覚ある女性」として社会に求められる態度・責任感をもち、豊かな感性とともに科学的観点を持って社会に奉仕する志を養っていること。

日本文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（文学）の学位を授与する。

1. 日本文化に関する全般的理解を土台として、日本のことば、文学、美術、伝統芸能、芸道、民俗等々、各人が特に関心を持つ日本文化の特定分野を中心に専門的知識を習得してその方法論に習熟し、その研究成果を卒業論文で提示し得ていること。
2. 日本文化学科で学習した専門的知識や探求の方法論の習得を通じて、国際交流といった場面も含めて社会で要請される実践的な問題発見・解決能力、創造的思考力、さらには表現力をはじめとするコミュニケーション能力を身につけていること。
3. 日本文化に関する基本的な教養を基盤として、豊かな感性と理性を備えた自覚ある女性として社会に奉仕、貢献していくこととする志を持っていること。

幼児教育学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 教養を養うと共に、幼児教育・保育について広範かつ専門的に学習し、「すべてのくひと・もの・こと」に感謝できる保育者」「子どもと共に生きることができる自覚ある保育者」としての素養を身に付けていること。
2. 子どもの内面を理解しようとする意識・姿勢を持つと共に、発達や障害に関する知識を備え、保育において柔軟で適切な援助や指導に取り組めること。
3. 幼児教育・保育を行う上で必要な表現技術（音楽・図画工作・体育・言語）を備え、実践する力を修得していること。
4. 自らの持つ個性や能力、女性としての自覚を生かして社会に貢献しようとする姿勢を持っていること。

児童教育学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（教育学）の学位を授与する。

1. 教育に関する専門的知識・技能・態度を習得し、学校現場との連携による体験的な学習活動を通して、小学校教員として求められる実践力を有すること。
2. 児童に対する深い愛情を備え、優れたコミュニケーション能力と「奉仕の精神」をもって児童の心に寄り添える能力を有すること。
3. 高いコミュニケーション能力を備え、教員間や保護者・地域社会と連携し学校運営（学級運営）を実行できる能力を有すること。
4. いじめや不登校などさまざまな教育課題に積極的に対応できる課題解決能力を有すること。
5. 一人ひとりの児童の個性や可能性を引き出すために、自らの感性を磨き、児童の創造的な学習活動の指導・支援を行う能力を有すること。

生活文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（社会学）の学位を授与する。

1. 健康社会構築のために貢献できる栄養士・栄養教諭としての知識・技術を有していること。
2. 地域社会の食育に積極的に参画できる栄養士・栄養教諭としての知識・技術を有していること。
3. 伝統的な日本文化を踏まえ、感性豊かな食空間を構成できる栄養士・栄養教諭としての知識・技術を有していること。
4. 社会の構成メンバーとして、社会現象を的確にとらえ、問題解決のための実践的スキルと創造的思考力を有していること。
5. 女性としての自覚をもとに、社会環境に柔軟に適応・協調し、かつ奉仕できる能力を有していること。

観光文化学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学士（社会学）の学位を授与する。

1. 女性の感性が重視される観光業において、「自覚ある女性」として活躍できる能力を身につけていること。
2. 観光という現象について地理学や歴史学、社会学、心理学などの学際的な方法論を用いて考察する力を身につけ、現代社会の多様な問題解決に応用できる力を有すること。
3. 日本と海外の観光、歴史・文化に関する知識を身につけ、英語運用能力に習熟し、インバウンド対応力を有すること。また、観光分野のみならず、あらゆる分野でグローバルな活躍ができる能力を有すること。
4. さまざまな実践（研修旅行、視察、見学授業、地域活動、インターンシップ等）を通じて、総合的なコミュニケーション能力、リーダーシップ、チームワーク、自己管理能力等を身につけていること。